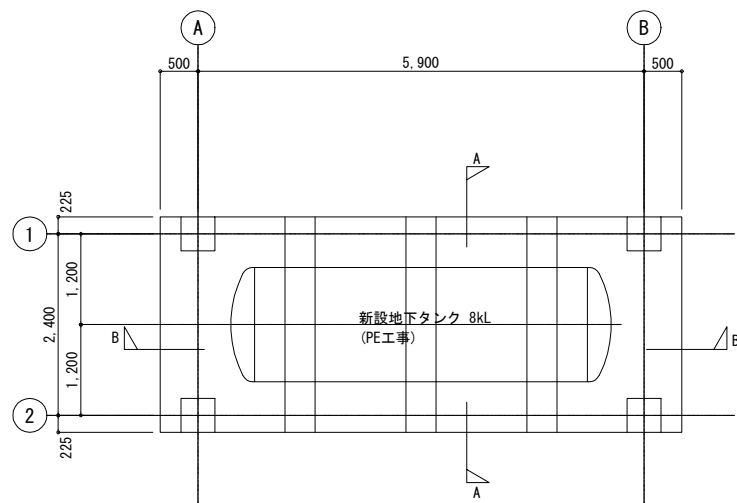
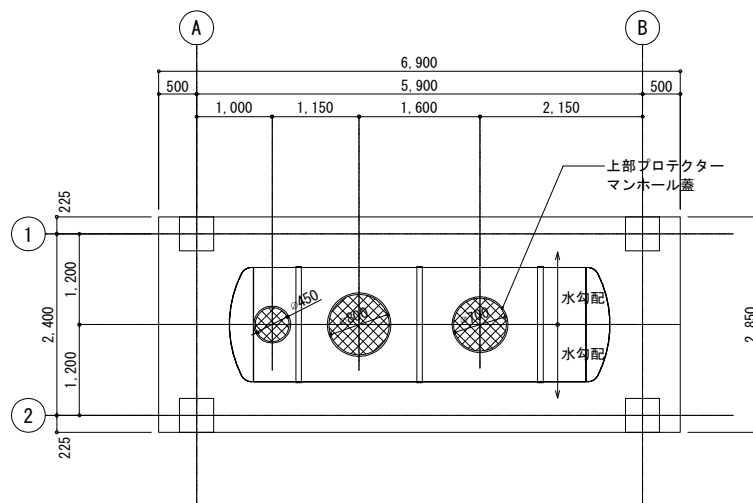
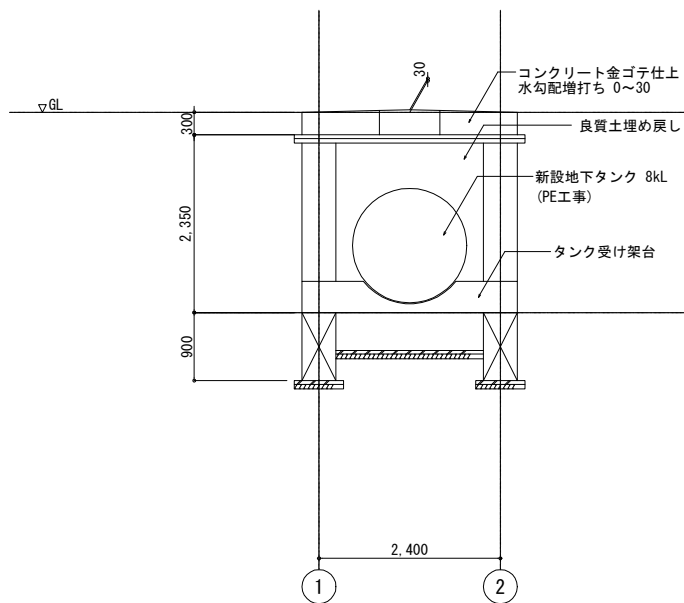




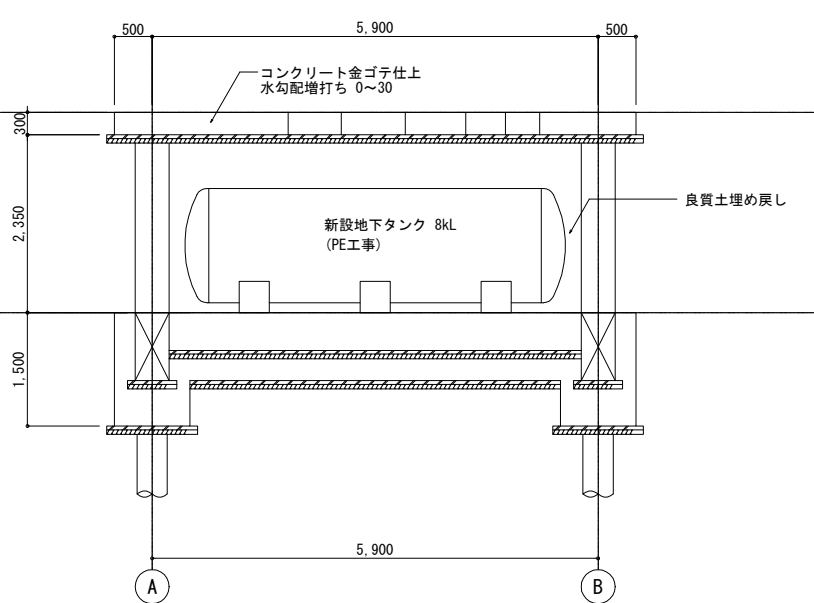
下部平面図



上部平面図

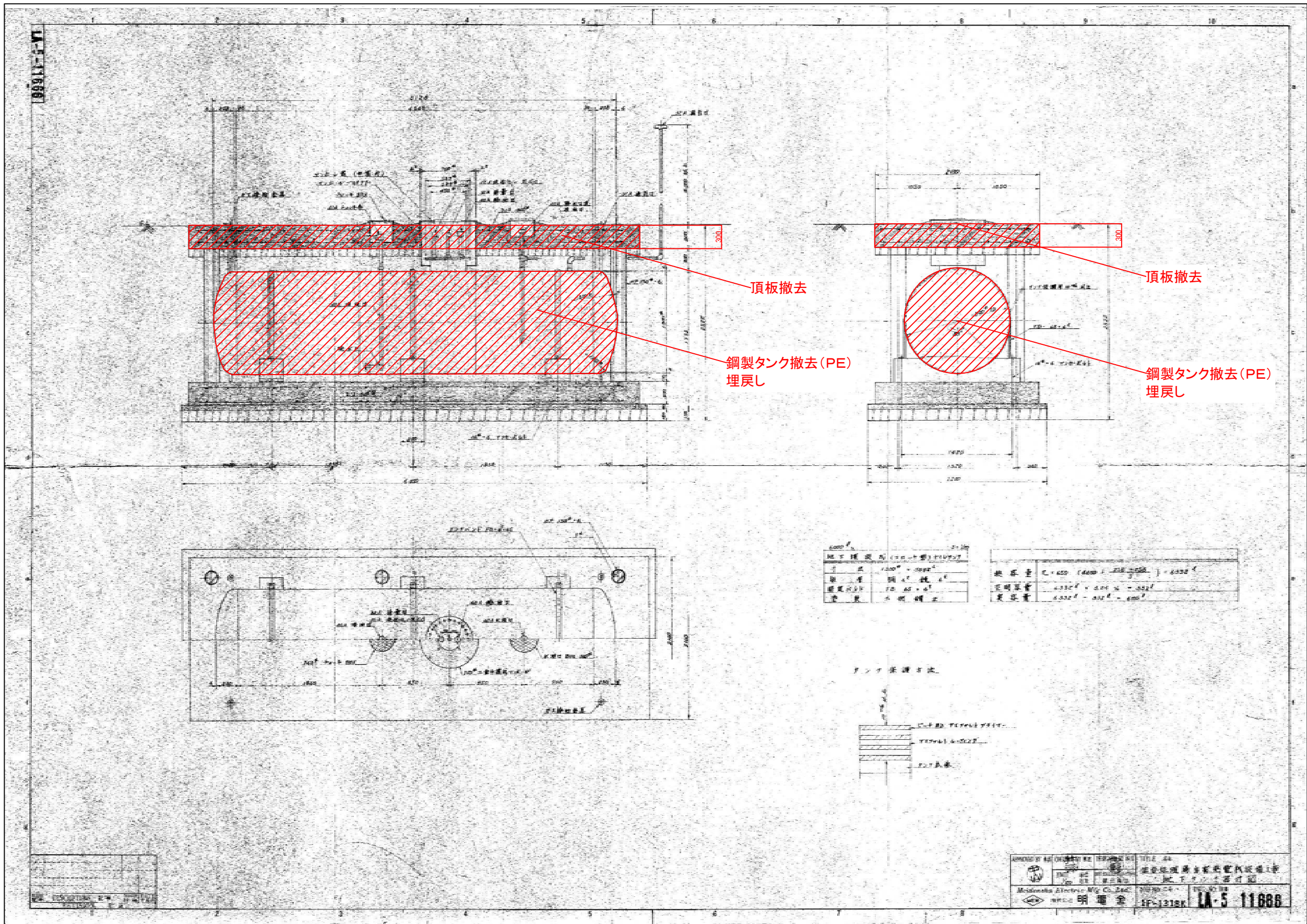


A - A 断面図



B - B 断面図

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備詳更新工事		
図面名称	地下タンク 平面図, 断面図		
図面番号	AD-2		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



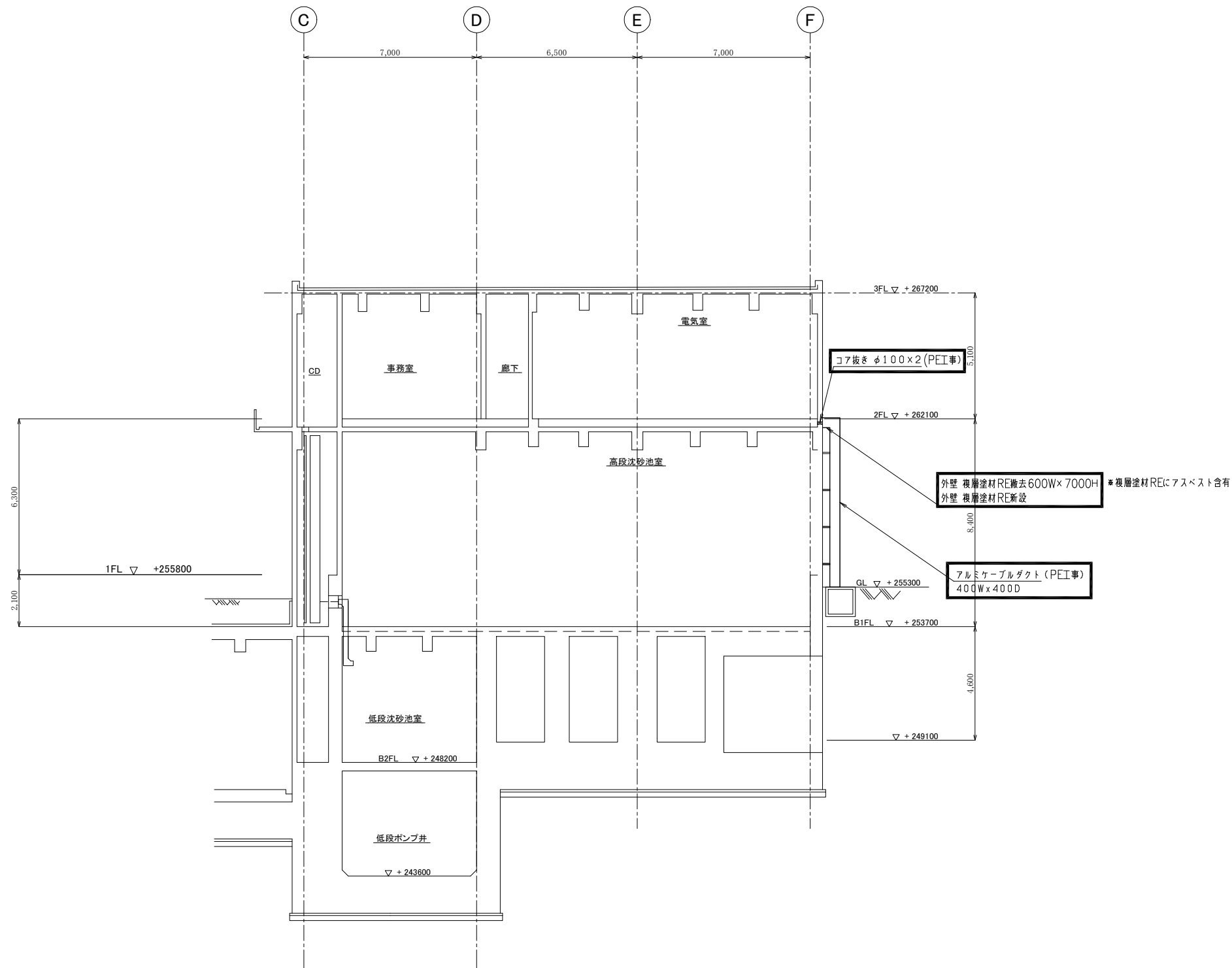
凡例



撤去範囲を示す。

住吉中継ポンプ場

工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	撤去図		
図面番号	AD-3		
縮尺	1/100	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			



A - A 断面図 S=A1:1/100 A3:1/200

注 記
1. は今回を示す。

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	沈砂池設備断面図（アスベスト除去）		
図面番号	AD-4		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

構造細目共通図(建築構造物) < 令和4年版 > ※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。					2 共通事項 2. 1 記号及び符号 設計図中で使用する記号及び符号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。 2. 1表 鉄筋の断面表示 <table><tr><td>径</td><td>D10</td><td>D13</td><td>D16</td><td>D19</td><td>D22</td><td>D25</td><td>D29</td><td>D32</td></tr><tr><td>記号</td><td>●</td><td>×</td><td>∅</td><td>●</td><td>○</td><td>⊙</td><td>⊗</td><td>◎</td></tr></table> 2. 2表 一般凡例 <table><tr><th>記号 符 号</th><th>内 容</th><th>※印の説明及び注意事項</th></tr><tr><td>F※</td><td>フーチング断面種別</td><td>※ 番号</td></tr><tr><td>※1C※2</td><td>柱断面種別</td><td>※1 階数 ※2 その階の番号</td></tr><tr><td>※1G※2</td><td>大梁断面種別</td><td>※1 階数、地中大梁はFとする その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----</td></tr><tr><td>CG※</td><td>片持大梁断面種別</td><td>※ 番号、階別区分はしない</td></tr><tr><td>※1B※2</td><td>小梁断面種別</td><td>※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く</td></tr><tr><td>CB※</td><td>片持小梁断面種別</td><td>※ 番号、階別区分はしない</td></tr><tr><td>※1W※2</td><td>壁配筋種別</td><td>※1 E:耐震壁, K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)</td></tr><tr><td>※1S※2※3</td><td>床版配筋種別</td><td>※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない</td></tr><tr><td>※1K※2</td><td>階段の配筋種別</td><td>※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない</td></tr><tr><td>CB※</td><td>コンクリートブロック壁</td><td>※ 壁厚(cm)</td></tr><tr><td></td><td>打ち増し範囲</td><td></td></tr><tr><td></td><td>梁・床版の上がり下がり</td><td>一般には基準FLよりの＋、－に 応じた凡例により表示</td></tr><tr><td>(※)</td><td>床用積載荷重</td><td>積載荷重の値 (kN/m²)</td></tr><tr><td>STP</td><td>あばら筋、スターラップ</td><td>梁、基礎梁、小梁</td></tr><tr><td>HOOP</td><td>帯筋、帯鉄筋、フープ</td><td>柱</td></tr><tr><td>S.HOOP</td><td>スパイラル筋、らせん筋</td><td>柱</td></tr><tr><td>幅止筋</td><td>幅止め筋</td><td>柱、梁、壁</td></tr><tr><td>組立筋</td><td>組立て筋</td><td>床版、底版</td></tr></table>					径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	記号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎	記号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項	F※	フーチング断面種別	※ 番号	※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号	※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----	CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない	※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く	CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない	※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁, K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)	※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない	※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない	CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)		打ち増し範囲			梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に 応じた凡例により表示	(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 (kN/m ²)	STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁	HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱	S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱	幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁	組立筋	組立て筋	床版、底版	3 鉄筋の折曲げ加工 鉄筋の折曲げ加工は、3. 1表を標準とする。 (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。 3. 1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部) <table><tr><th rowspan="3">曲げ 角度</th><th rowspan="3">折 曲 げ 図</th><th colspan="2">折曲げ内法直径(D)</th><th rowspan="3">使 用 箇 所</th></tr><tr><th colspan="2">SD295 SD345</th></tr><tr><th>D16 以下</th><th>D19 ～D38</th></tr><tr><td>180°</td><td></td><td>3d以上</td><td>4d以上</td><td>柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋</td></tr><tr><td>135°</td><td></td><td>3d以上</td><td>4d以上</td><td>D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋</td></tr><tr><td>90°</td><td></td><td>3d以上</td><td>4d以上</td><td>T形及びL形の梁の あばら筋</td></tr><tr><td>135° 90°</td><td></td><td>3d以上</td><td>4d以上</td><td>90° 幅止め筋</td></tr></table> (注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。 2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。					曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所	SD295 SD345		D16 以下	D19 ～D38	180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋	135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋	90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋	135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋	5 鉄筋のかぶり及び間隔 5. 1 かぶり厚さ かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5. 1図)をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。 5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ 5. 2 最小かぶり厚さ 最小かぶり厚さは、5. 1表による。 (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。 (2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上として最小かぶり厚さを定める。 (3)溶接金網にも適用する。 5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm) <table><tr><th colspan="2">塩害区分</th><th>※ 通常の施工の場合</th><th>・ 塩害対策を 必要とする場合</th></tr><tr><th rowspan="3">構造部分の種別</th><th>床、耐力壁以外の壁</th><td>30</td><td>40</td></tr><tr><th>柱、梁、耐力壁</th><td>40</td><td>50</td></tr><tr><th>底版</th><td>40</td><td>50</td></tr><tr><th rowspan="2">土、水に 接する部分</th><th>柱、梁、床、壁</th><td>40</td><td>50</td></tr><tr><th>底版、基礎</th><td>60</td><td>70</td></tr><tr><th colspan="2">煙突等高熱を受ける部分</th><td>60</td><td>70</td></tr></table> 1: 打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2: 杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭天端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。 3: 仕上なしの場合を標準とする。					塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合	構造部分の種別	床、耐力壁以外の壁	30	40	柱、梁、耐力壁	40	50	底版	40	50	土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50	底版、基礎	60	70	煙突等高熱を受ける部分		60	70	5. 3 鉄筋相互のあき及び間隔 鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。 (1)粗骨材の最大寸法の1. 25倍 (2)最小のあき25mm (3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1. 5倍 5. 2図 鉄筋相互のあき及び間隔 5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧 <table><tr><th colspan="2">鉄筋径(mm)</th><th colspan="3">鉄筋相互のあき:a</th><th rowspan="2">最小鉄筋芯間隔 a+D</th></tr><tr><th>鉄筋径 d</th><th>最外径 D</th><th>(1) 粗骨材径×1.25</th><th>(2) 最小あき</th><th>(3) 鉄筋径×1.5</th></tr><tr><td>D10</td><td>11</td><td rowspan="7">32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合</td><td rowspan="8">25mm</td><td>15mm</td><td>43mm</td></tr><tr><td>D13</td><td>14</td><td>20mm</td><td>46mm</td></tr><tr><td>D16</td><td>18</td><td>24mm</td><td>50mm</td></tr><tr><td>D19</td><td>21</td><td>29mm</td><td>53mm</td></tr><tr><td>D22</td><td>25</td><td>33mm</td><td>58mm</td></tr><tr><td>D25</td><td>28</td><td>38mm</td><td>66mm</td></tr><tr><td>D29</td><td>33</td><td>44mm</td><td>77mm</td></tr></table>					鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔 a+D	鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm	D13	14	20mm	46mm	D16	18	24mm	50mm	D19	21	29mm	53mm	D22	25	33mm	58mm	D25	28	38mm	66mm	D29	33	44mm	77mm	4 異形鉄筋の末端部 4. 1 フックを設ける位置 異形鉄筋の末端部には、4. 1表によりフックを設ける。 4. 1表 フックを設ける位置 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">部 位</th><th colspan="2">継手方式</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th>重ね継手</th><th>圧接継手</th></tr><tr><td rowspan="4">柱</td><td>四隅の主筋</td><td>――</td><td>1)最上階の柱頭部</td><td>4. 1図の●印 8. 1図参照</td></tr><tr><td>上下階の柱断面が異なる場合</td><td>――</td><td>1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部</td><td>4. 1図の●印 8. 2図参照</td></tr><tr><td>帯筋(HOOP)</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>9. 1図参照</td></tr><tr><td>あばら筋(STP)</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>11. 1図参照</td></tr><tr><td>梁</td><td>独立フーチング基礎の底盤筋</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>20. 1図参照</td></tr><tr><td>杭基礎</td><td></td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">煙突の鉄筋</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>壁の一部となる場合を含む</td></tr><tr><td colspan="2">幅止め筋</td><td>――</td><td>――</td><td>3. 1表参照</td></tr></table> 4. 1図 異形鉄筋の末端部					部 位		継手方式		備 考	重ね継手	圧接継手	柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部	4. 1図の●印 8. 1図参照	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4. 1図の●印 8. 2図参照	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9. 1図参照	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	11. 1図参照	梁	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20. 1図参照	杭基礎		1)末端部 2)継手部	1)末端部		煙突の鉄筋		1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む	幅止め筋		――	――	3. 1表参照
径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32																																																																																																																																																																																																																																											
記号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎																																																																																																																																																																																																																																											
記号 符 号	内 容	※印の説明及び注意事項																																																																																																																																																																																																																																																	
F※	フーチング断面種別	※ 番号																																																																																																																																																																																																																																																	
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号																																																																																																																																																																																																																																																	
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----																																																																																																																																																																																																																																																	
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない																																																																																																																																																																																																																																																	
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く																																																																																																																																																																																																																																																	
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない																																																																																																																																																																																																																																																	
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁, K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)																																																																																																																																																																																																																																																	
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない																																																																																																																																																																																																																																																	
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない																																																																																																																																																																																																																																																	
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)																																																																																																																																																																																																																																																	
	打ち増し範囲																																																																																																																																																																																																																																																		
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に 応じた凡例により表示																																																																																																																																																																																																																																																	
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 (kN/m ²)																																																																																																																																																																																																																																																	
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁																																																																																																																																																																																																																																																	
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱																																																																																																																																																																																																																																																	
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱																																																																																																																																																																																																																																																	
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁																																																																																																																																																																																																																																																	
組立筋	組立て筋	床版、底版																																																																																																																																																																																																																																																	
曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所																																																																																																																																																																																																																																															
		SD295 SD345																																																																																																																																																																																																																																																	
		D16 以下	D19 ～D38																																																																																																																																																																																																																																																
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋																																																																																																																																																																																																																																															
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋																																																																																																																																																																																																																																															
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋																																																																																																																																																																																																																																															
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋																																																																																																																																																																																																																																															
塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合																																																																																																																																																																																																																																																
構造部分の種別	床、耐力壁以外の壁	30	40																																																																																																																																																																																																																																																
	柱、梁、耐力壁	40	50																																																																																																																																																																																																																																																
	底版	40	50																																																																																																																																																																																																																																																
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50																																																																																																																																																																																																																																																
	底版、基礎	60	70																																																																																																																																																																																																																																																
煙突等高熱を受ける部分		60	70																																																																																																																																																																																																																																																
鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔 a+D																																																																																																																																																																																																																																														
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5																																																																																																																																																																																																																																															
D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm																																																																																																																																																																																																																																														
D13	14			20mm	46mm																																																																																																																																																																																																																																														
D16	18			24mm	50mm																																																																																																																																																																																																																																														
D19	21			29mm	53mm																																																																																																																																																																																																																																														
D22	25			33mm	58mm																																																																																																																																																																																																																																														
D25	28			38mm	66mm																																																																																																																																																																																																																																														
D29	33			44mm	77mm																																																																																																																																																																																																																																														
部 位		継手方式		備 考																																																																																																																																																																																																																																															
		重ね継手	圧接継手																																																																																																																																																																																																																																																
柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部	4. 1図の●印 8. 1図参照																																																																																																																																																																																																																																															
	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4. 1図の●印 8. 2図参照																																																																																																																																																																																																																																															
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9. 1図参照																																																																																																																																																																																																																																															
	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	11. 1図参照																																																																																																																																																																																																																																															
梁	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20. 1図参照																																																																																																																																																																																																																																															
杭基礎		1)末端部 2)継手部	1)末端部																																																																																																																																																																																																																																																
煙突の鉄筋		1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む																																																																																																																																																																																																																																															
幅止め筋		――	――	3. 1表参照																																																																																																																																																																																																																																															

住 吉 中 継 ポ ン プ 場 工事名称 住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事				
図面名称 構造細目共通図(建築構造物)(1)				
図面番号 AS-1				
縮 尺 A1: NONE A3: NONE		設計年度		令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局				

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

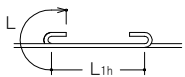
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1)鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3)主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)		L _{1h} (フックあり)	
		L ₁	L ₂	L _{1h}	L _{2h}
SD295	24, 27	35d		25d	
	30	35d		25d	
SD345	24, 27	40d		30d	
	30	35d		25d	

- (注)1. L₁、L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h}は、6. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
		L ₁	L ₂	小梁	スラブ	L _{1h}	L _{2h}	小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

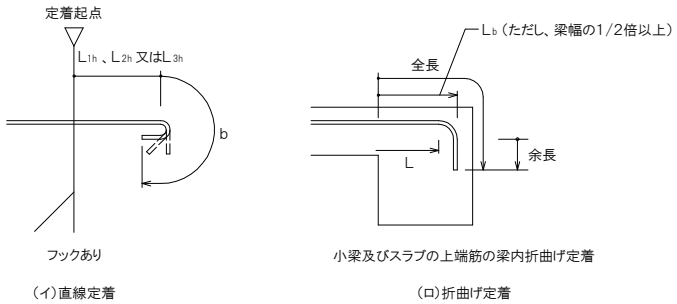
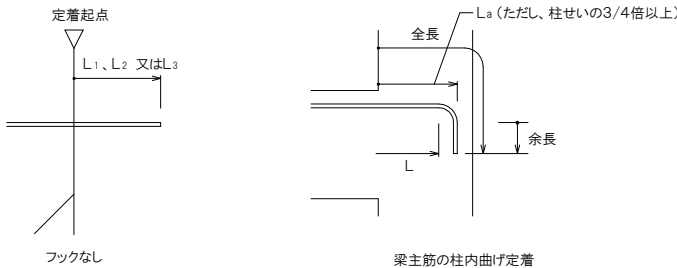
- (注)1. L₁、L_{1h}：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L₂、L_{2h}：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さのみみさせる。

- (注)1. L_a、L_bは、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
 - ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
 - ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注)1. L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

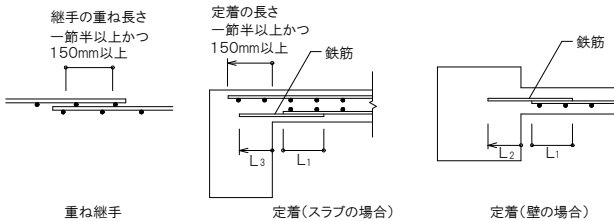
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

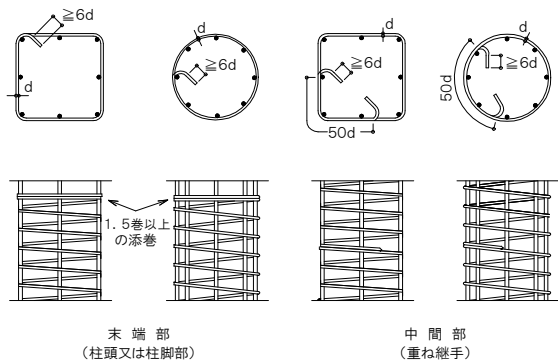
重ね継手	フック有りの場合	F _{1h}		F _{1h}	
		L _{1h}	L _{1h}	L _{1h}	L _{1h}
フックなしの場合	F _{1h}	a=0. 5L _{1h}	a≥0. 5L _{1h}	a=0. 5L ₁	a≥0. 5L ₁
		L ₁	L ₁	L ₁	L ₁
圧接継手	F _{1h}	a=0. 5L ₁	a≥0. 5L ₁	a=0. 5L ₁	a≥0. 5L ₁
		L ₁	L ₁	L ₁	L ₁

- (2)溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3)スパイラル筋の継手及び定着



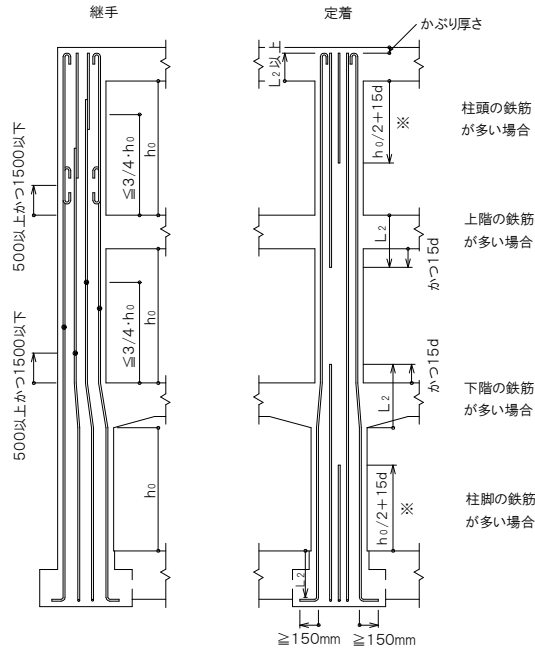
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

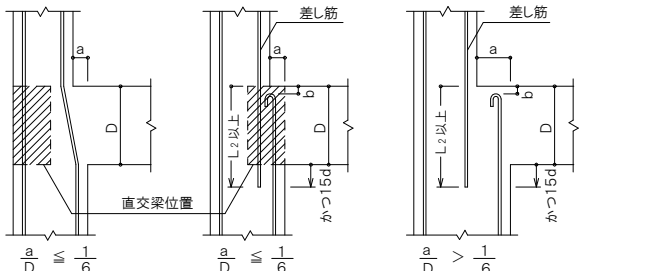
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1)継手長さはL₁とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2)柱頭定着長さL₂が確保出来ない場合は、図面による。
- (3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4h₀ (h₀は柱の内法高さ)以下とする。
- (5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

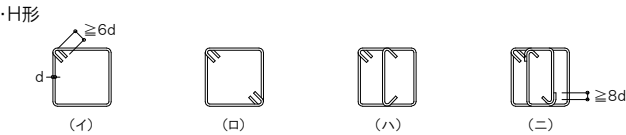


8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

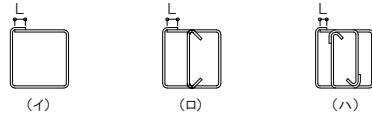
9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

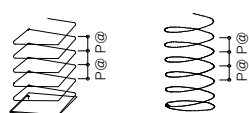
- (1)帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a)H形を標準とする。
- (b)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
- (c)溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



・W－I形(溶接を行う)



・SP形(スパイラル筋)



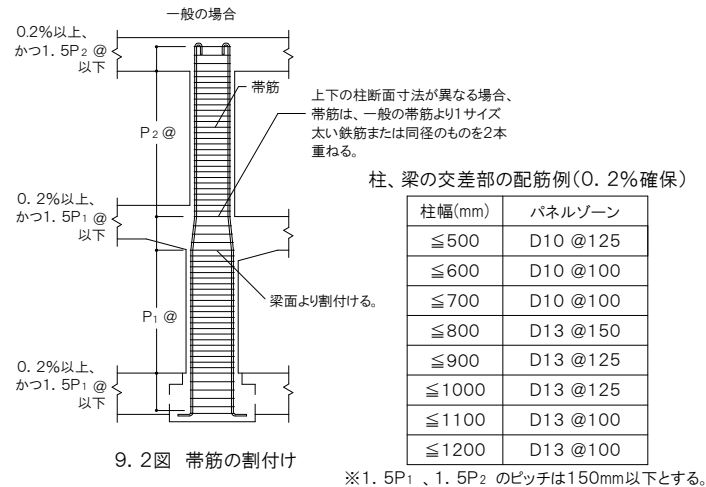
・丸形



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
- (2)帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2％以上を確保し、補強筋間隔 ≤ 1. 5Pとする。



9. 2図 帯筋の割付け

※1. 5P₁、1. 5P₂ のピッチは150mm以下とする。

住 吉 中 継 ポ ン プ 場

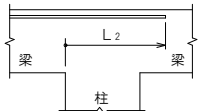
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（2）		
図面番号	AS-2		
縮 尺	A1: NONE A3: NONE	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

10 大梁筋の継手及び定着

10. 1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

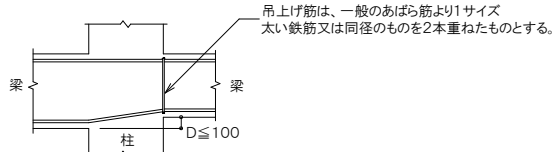
大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、10. 1 図による。



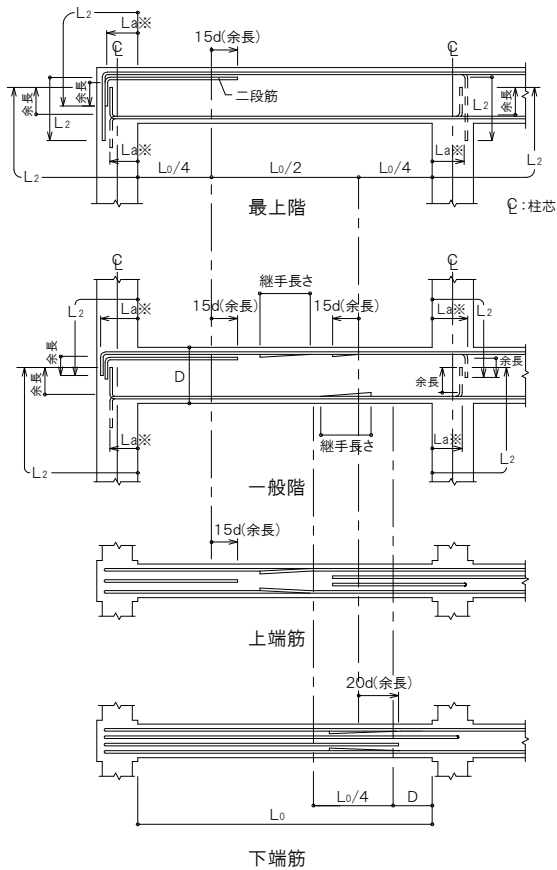
10. 1 図 梁主筋の梁内定着

- b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、6. 1. 4による。
上端筋:曲げ下ろす。
下端筋:原則として曲げ上げる。
c. 段違い梁は10. 2図による。



10. 2 図 段違い梁

10. 2 ハンチのない場合

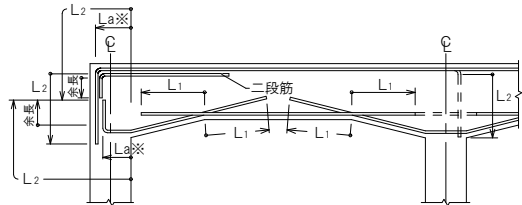


- (注)1. 継手中心位置は次による。
上端筋:中央 $L_0/2$ 以内
下端筋:柱面より梁せい(D)以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内
2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ L_a の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 3 図 大梁の重ね継手、定着及び余長

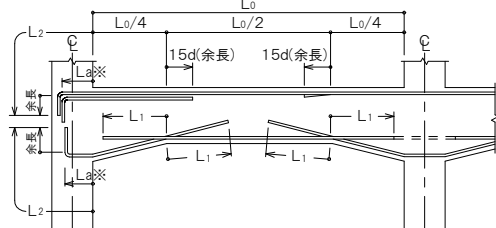
10. 3 ハンチのある場合

(1)最上階の場合



10. 4 図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)

(2)一般階の場合

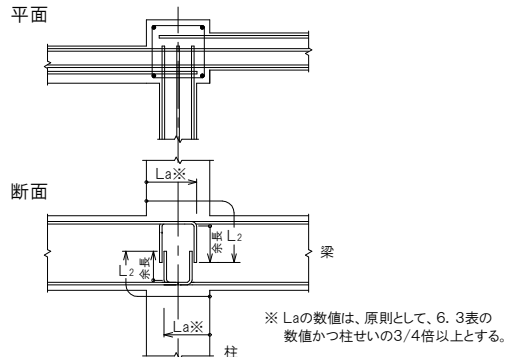


10. 5 図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)

- (注)1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、＝＝＝のように引き通すことができる。
4. 破線は、梁内定着の場合を示す。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。
※ L_a の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 4 水平段差のある場合

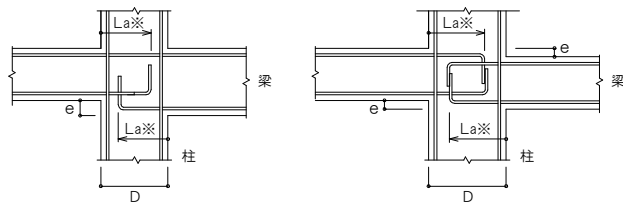
水平段差のある場合



10. 6 図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)

10. 5 鉛直段差(e)のある場合

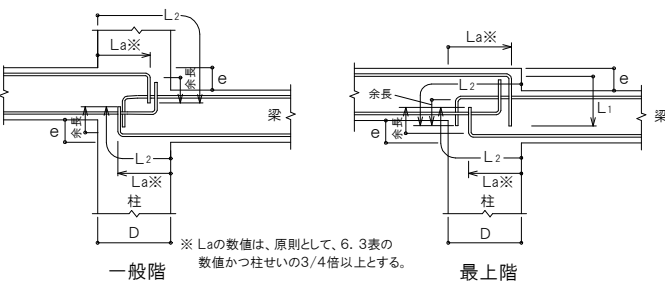
(1) $e/D \leq 1/6$ の場合



- 定着の長さは、10. 3図に準ずる
※ L_a の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

10. 7 図 鉛直段差梁(その1)

(2) $e/D > 1/6$ の場合



10. 8 図 鉛直段差梁(その2)

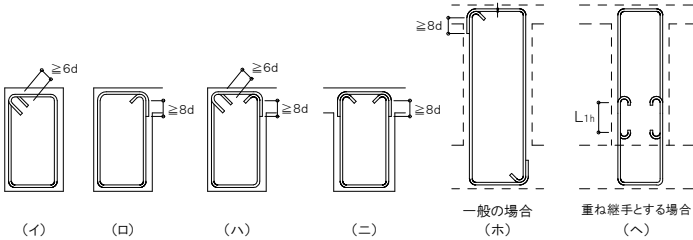
11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

11. 1 一般事項

- (1)腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、 L_2 とする。
(3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
(4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10—1000mmピッチ程度とする。

11. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

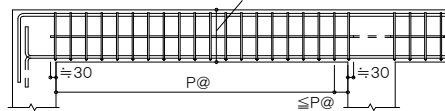
- (1)形は、11. 1図(イ)を標準とする。
ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)
b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)
(2)フックの位置
a. (イ)の場合は交互とする。
b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。
c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。
d. (ホ)(ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1. 5m
以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



11. 1 図 あばら筋組立の形及びフックの位置

11. 3 あばら筋の割付け

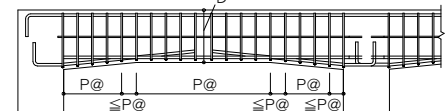
(1)間隔が一様でハンチのない場合



- (注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 2 図 あばら筋の割付け(その1)

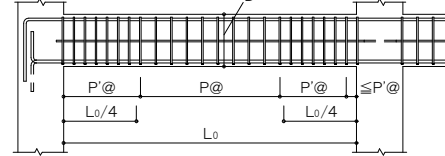
(2)間隔が一様でハンチのある場合



- (注)1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 3 図 あばら筋の割付け(その2)

(3)梁の端部で間隔の異なる場合



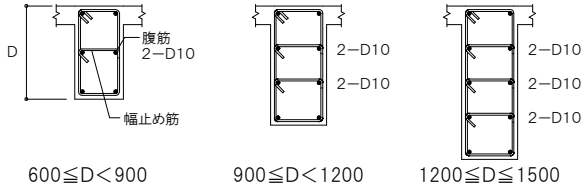
- (注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

11. 4 図 あばら筋の割付け(その3)

11. 4 腹筋及び幅止め筋

(1)一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



11. 5 図 腹筋及び幅止め筋

(2)特殊な梁

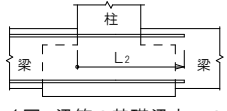
腹筋及び幅止め筋は、図面による。

12 基礎梁及び底版の継手及び定着

12. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

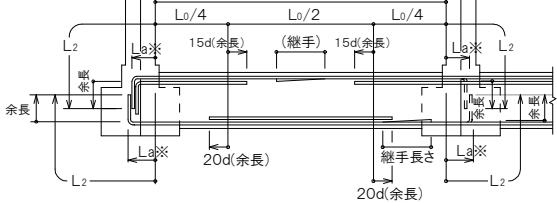
(1)一般事項

- (a)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12. 1 図による。
(b)梁筋を柱内に定着する場合は10. 1(1)bによる。

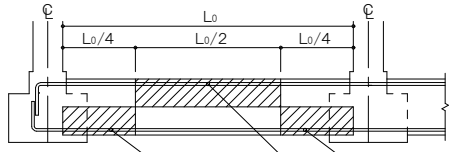


12. 1 図 梁筋の基礎梁内への定着

(2)独立基礎で基礎梁(スラブなどの上載荷重を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長



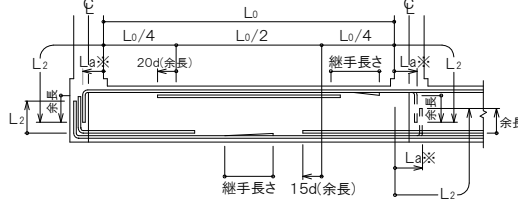
- (注)1. 図示のない事項は、10. 1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_a の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。



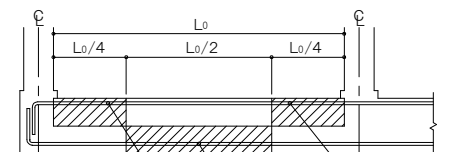
ガス圧接を例として示す
は継手を設けてもよい位置を示す

12. 2 図 主筋の継手、定着及び余長(その1)

(3)連続基礎及びべた基礎の基礎梁(基礎梁の下方より地反力(抗反力)を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長



- (注)1. 図示のない事項は、10. 1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_a の数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。



ガス圧接を例として示す
は継手を設けてもよい位置を示す

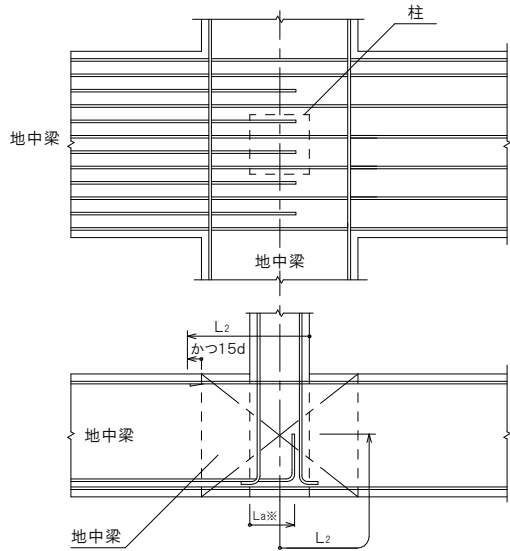
12. 3 図 主筋の継手、定着及び余長(その2)

住 吉 中 継 ポ ン プ 場

工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	構造細目共通図 (建築構造物) (3)		
図面番号	AS-3		
縮 尺	A1: NONE A3: NONE	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

(4)柱幅<梁幅の場合

(a)交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



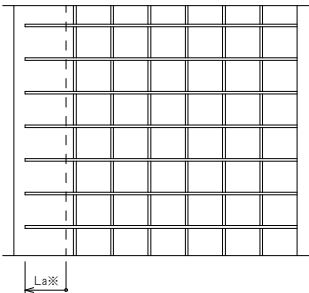
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

12. 4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

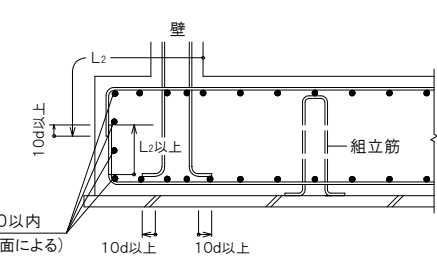
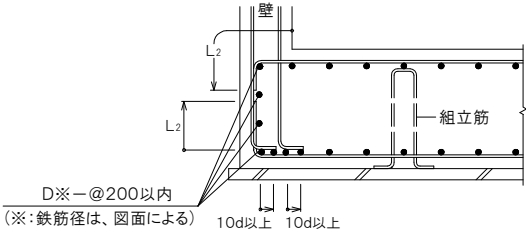
12. 4 梁形を設けない場合の基礎底版(オイルタンク等)

(1)定着の取り方は、壁の面からとする。

(2)途中で配筋が変わる場合の定着は、12. 2図のように基礎底版筋を梁筋と読みかえる。

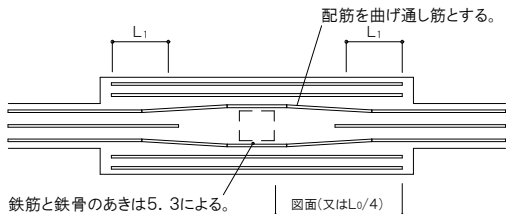


※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12. 5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

(3)鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12. 6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

13 小梁及び片持梁の配筋要領

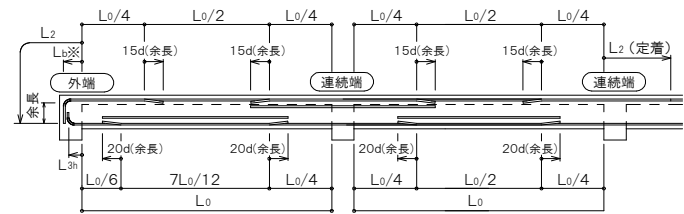
13. 1 一般事項

(1)図面でない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。

(2)印は、継手及び余長を示す。

13. 2 小 梁

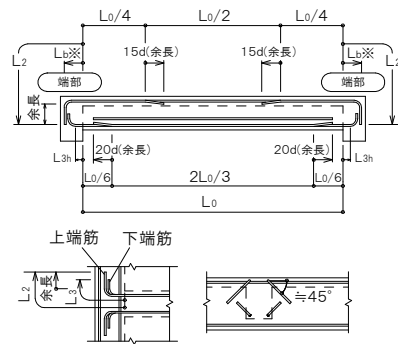
(1)連続小梁の場合



※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2)単独小梁の場合



13. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(注)1. 印は、継手及び余長を示す。

2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

3. 図示のない事項は、10. 1及び12. 1に準ずる。

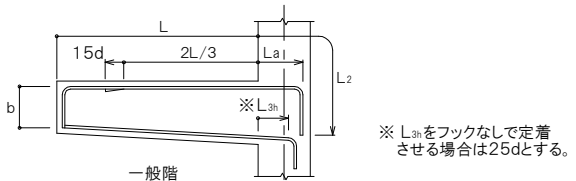
※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 3 片持梁筋の定着

(1)先端に小梁のない場合

a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



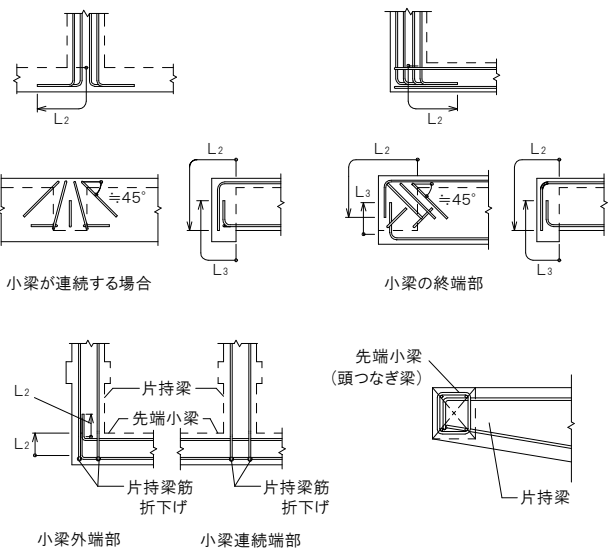
13. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

(2)先端に小梁がある場合

a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



13. 4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14. 1 一般事項

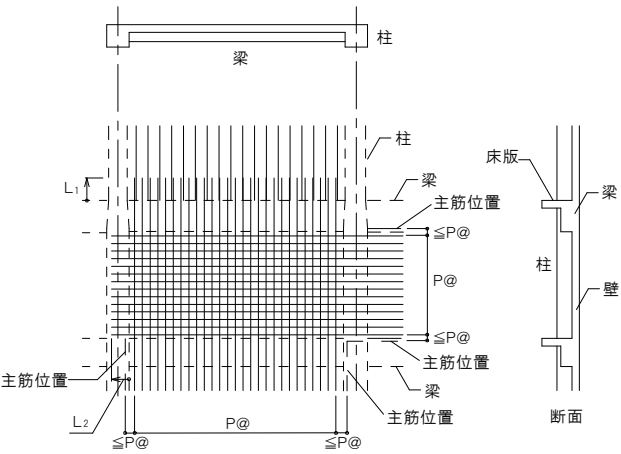
(1)一般壁配筋の重ね継手の長さはL1とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

また、定着の長さは、L2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

(2)幅止め筋は、縦、横ともD10ー@1000を標準とする。

(3)打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。

(4)土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



(注)図中のP@は、図面の壁筋の間隔を示す

14. 1図 壁の配筋

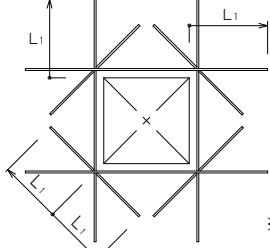
14. 2 耐震壁の開口

(1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。

(2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14. 3 壁開口部の補強

(1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14. 3図を標準とする。



※：鉄筋径及び本数は、図面による

14. 3図 壁開口部の補強の定着長さ

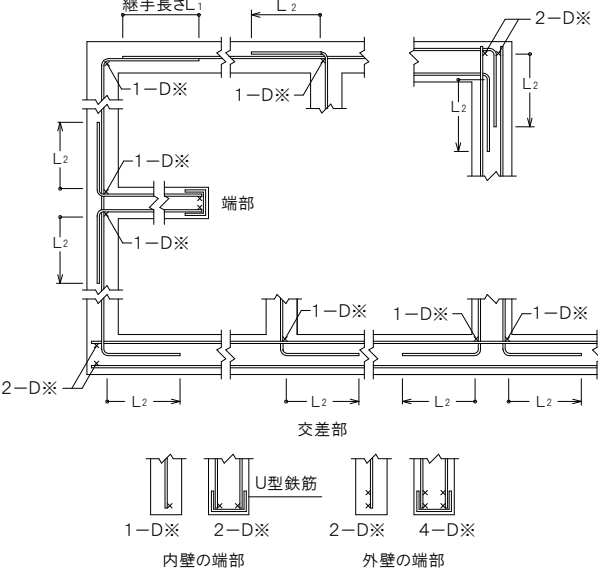
(2)開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることににより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14. 4 壁の交差部及び端部

壁の交差部及び端部の交差部は、14. 4図による。

a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。

b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。



14. 4図 壁の交差部及び端部の配筋

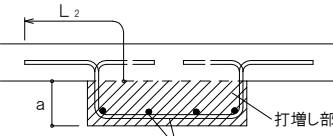
※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14. 5 壁の打増し要領

コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14. 5図による。

打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。

200mmを越える場合は、特記による。



14. 5図 壁の打増し補強配筋 (縦筋はD10とし、間隔は200mm 横筋はD10とし、間隔は壁横筋と同じ)

住 吉 中 継 ポ ン プ 場

工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（4）		
図面番号	AS-4		
縮 尺	A1: NONE A3: NONE	設計年度	令和6年度

甲 府 市 上 下 水 道 局

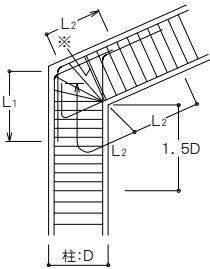
15 床の配筋要領 15.1 一般事項 (1)鉄筋の継手長さは、L_1とする。 (2)定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。 (3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。 ※ L_bの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。 15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1) ※ L_bの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。 15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)	15.3 片持ちスラブ出隅部の補強配筋 (1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。 (2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。 (注) $b_1 \geq b_2$とする (注)1. $b_1 \geq b_2$とする 2. 柱又は梁に L_1を定着する 15.6図 片持ちスラブ出隅部の補強配筋	16 柱及び梁の増し打ち要領 16.1 柱 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、$a < 70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm} < a$の場合は、図面による。 ※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。 16.1図 柱の増し打ち補強配筋 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。	18 階段の配筋要領 18.1 階段の配筋要領 (1)壁配筋は、図面による。 (2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。 18.1図 片持ちスラブ形階段配筋の定着																								
15.2 片持ちスラブ (1)片持ちスラブの配筋 ※先端の折り曲げ長さbは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。 15.4図 片持ちスラブの配筋 (2)先端に小梁がなく壁が取り付けく場合 15.5図 先端に壁が付く場合の配筋	15.4 地上部最上階の屋根床版 (1)出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。 (2)陸屋根、勾配屋根共通とする。 15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋 15.5 段差床版の補強 同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、$H > 150$の場合は、小梁を設ける事を原則とする。 15.8図 段差のある床版の補強配筋 15.6 床版開口部の補強 (1)開口の最大径≤ 700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図)開口の最大径> 700の場合は図面による。 ※:鉄筋径は、図面による 15.9図 床版開口部の補強配筋 (2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。	16.2 梁 (1)増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。 $a < 70\text{mm}$の場合、補強は行わない。$200\text{mm} < a$の場合は、図面による。 ※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。 16.2図 梁の増し打ち補強配筋 (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。 (5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合 16.3図 梁の上下の増し打ち配筋補強(途中で終わる場合) (6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合 16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)	<table><tr><td colspan="4">住 吉 中 継 ポ ン プ 場</td></tr><tr><td>工事名称</td><td colspan="3">住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事</td></tr><tr><td>図面名称</td><td colspan="3">構造細目共通図（建築構造物）（5）</td></tr><tr><td>図面番号</td><td colspan="3">AS-5</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td>A1:NONE A3:NONE</td><td>設計年度</td><td>令和6年度</td></tr><tr><td colspan="4">甲 府 市 上 下 水 道 局</td></tr></table>	住 吉 中 継 ポ ン プ 場				工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事			図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（5）			図面番号	AS-5			縮 尺	A1:NONE A3:NONE	設計年度	令和6年度	甲 府 市 上 下 水 道 局			
住 吉 中 継 ポ ン プ 場																											
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事																										
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（5）																										
図面番号	AS-5																										
縮 尺	A1:NONE A3:NONE	設計年度	令和6年度																								
甲 府 市 上 下 水 道 局																											

19 勾配屋根の取合い

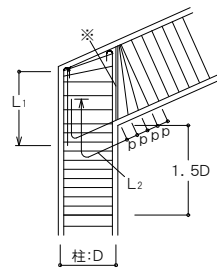
19. 1 斜め柱・斜め梁の取合い

- (1)※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
(2)1. 5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100以下とする。
(3)柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p以下とする。

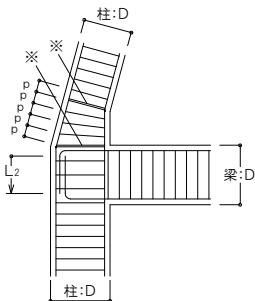
a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一



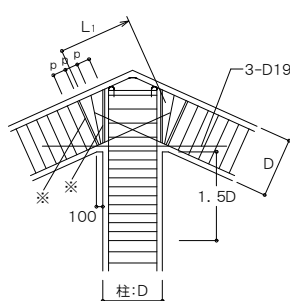
b) 柱幅と斜材幅が異なる



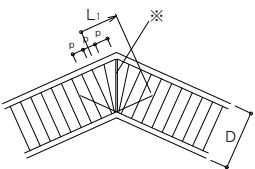
c) 柱脚で斜材となる



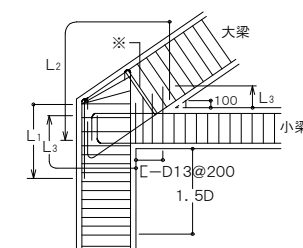
d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



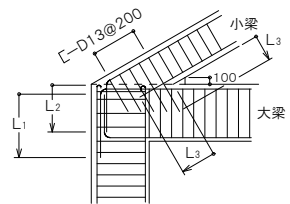
e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



f) 斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はa), b)に倣う。



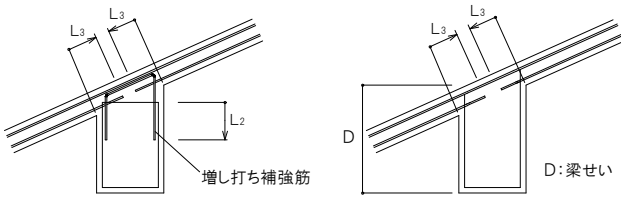
g) 大梁に斜め小梁が接する場合



19. 1図 斜め柱・斜め梁の取合い配筋

19. 2 梁と床版の取合い

増し打ち補強要領は、16. 2による。



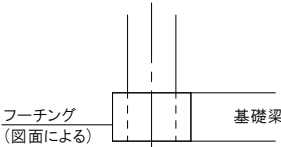
19. 2図 梁と床版の取合い配筋

19. 3 円柱の取合い

円柱と梁の取合い



- 1) 柱頭部で柱芯に梁が
取り付く場合
2) 柱頭部で柱外面に梁が
取り付く場合



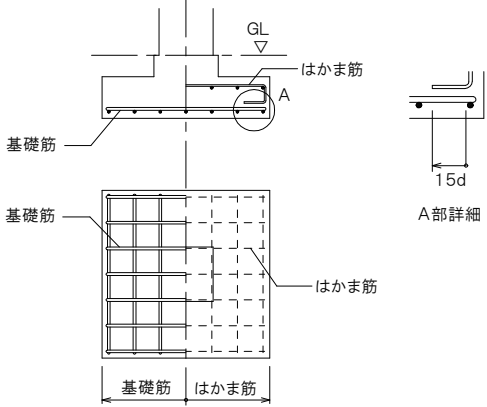
- 3) 柱脚部の円柱と基礎との
取合い

19. 3図 円柱の取合い配筋

20 基礎及び基礎梁の配筋

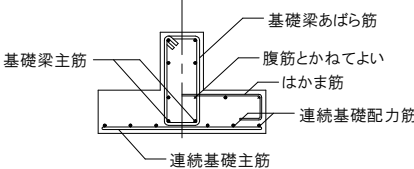
20. 1 直接基礎の配筋

(1)独立基礎



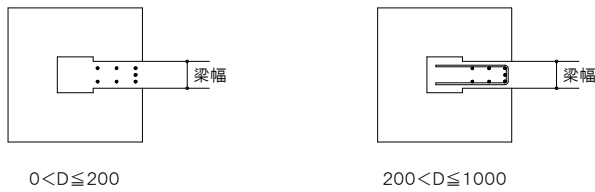
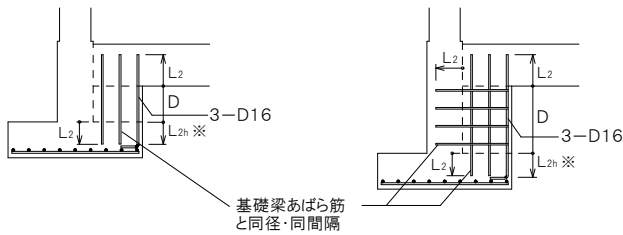
20. 1図 独立基礎の配筋

(2)連続基礎



20. 2図 連続基礎の配筋

20. 2 基礎接合部の補強配筋

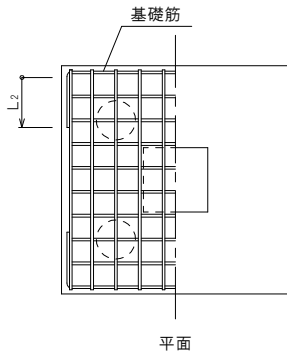
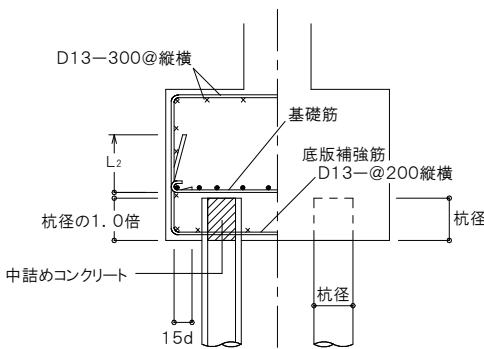


※L_{2n}を確保できない場合は、標仕(5. 3. 4(e)(2))によることができる。

21 杭基礎の補強

21. 1 杭基礎の配筋

- (1)中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(2)既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。



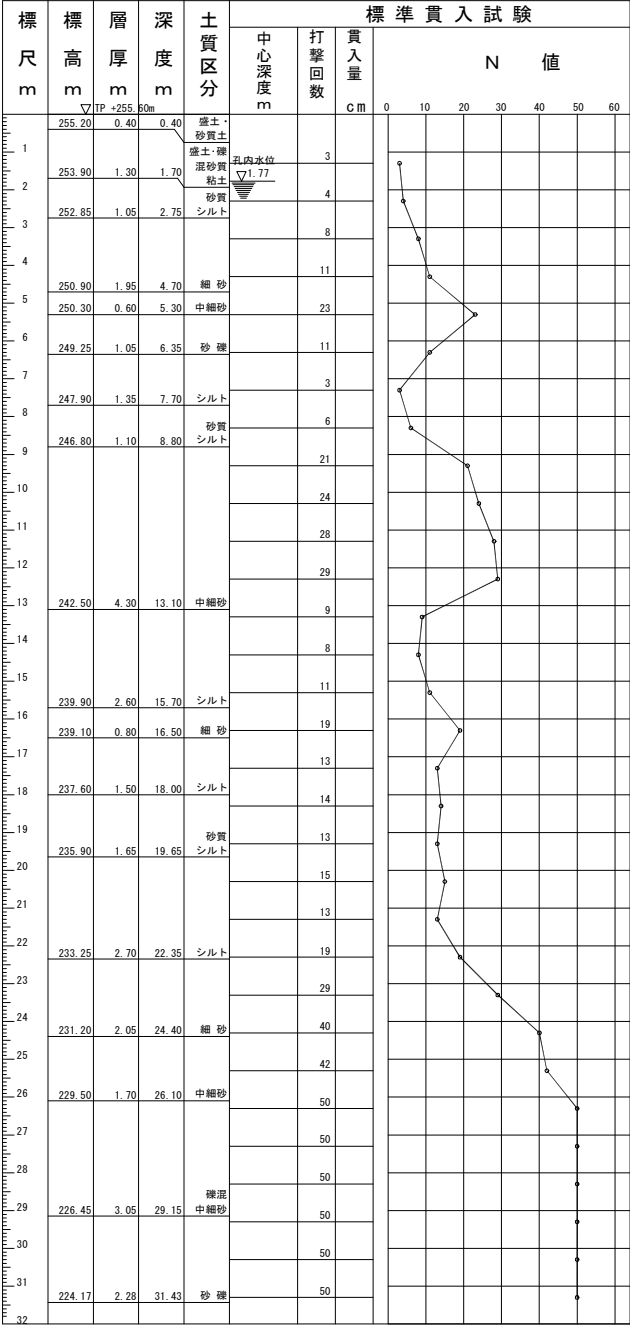
21. 1図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

21. 2 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は、20. 2による。

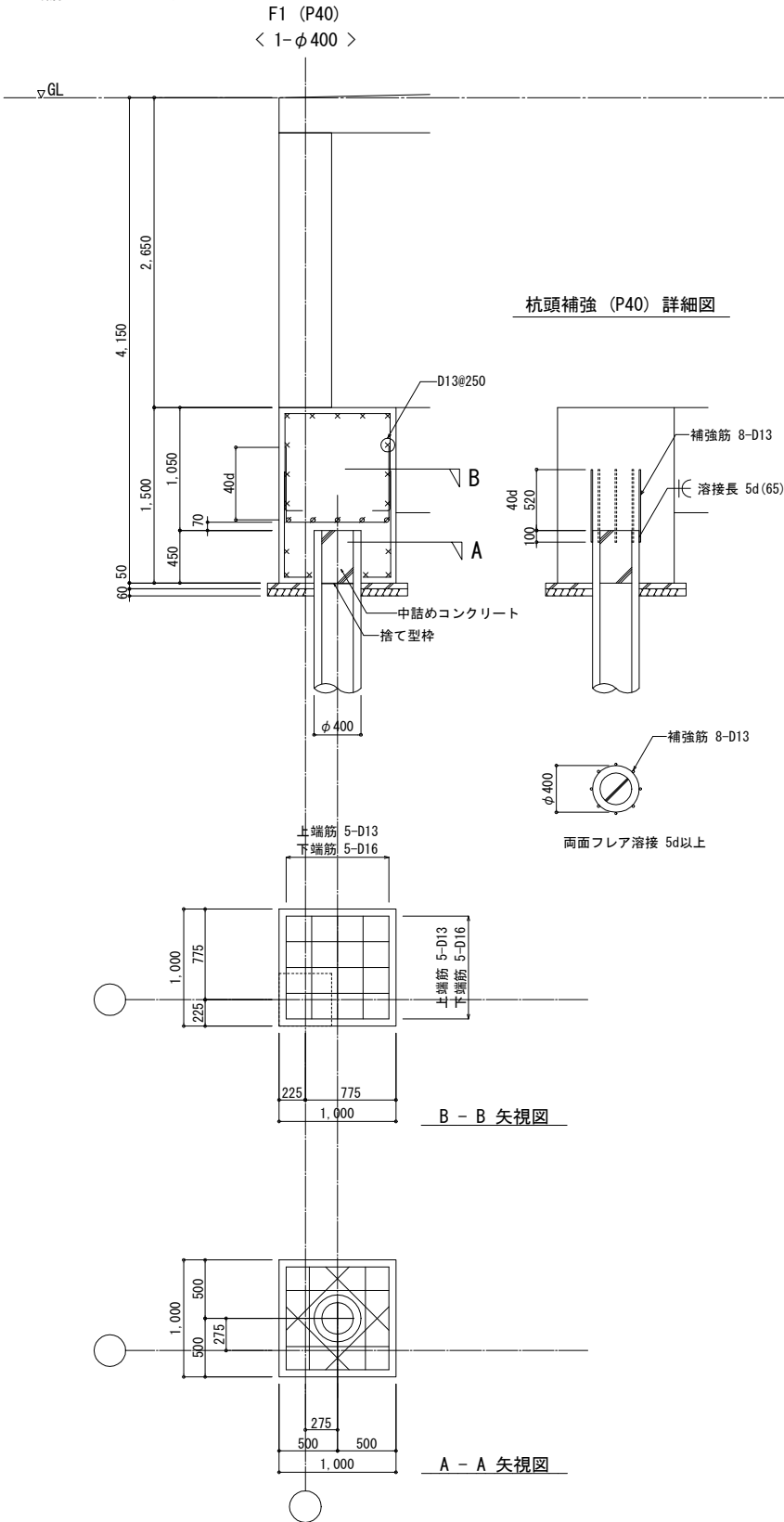
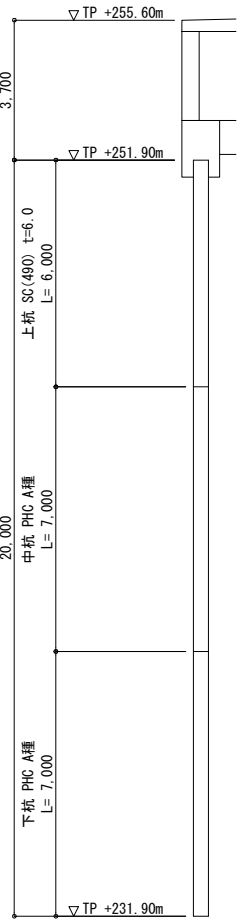
住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	構造細目共通図（建築構造物）（6）		
図面番号	AS-6		
縮 尺	A1: NONE A3: NONE	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

No.1 柱状図

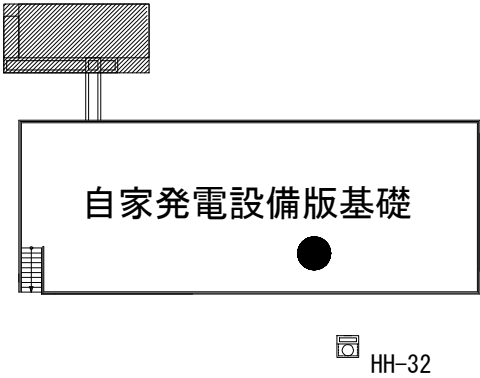


基礎リスト S=1/30

- ・コンクリート強度:24N/mm2
- ・鉄筋強度 : SD295 (D10~D16)
- ・※下端筋は全て40d立ち上げること



地下タンク



汚水中継ポンプ場

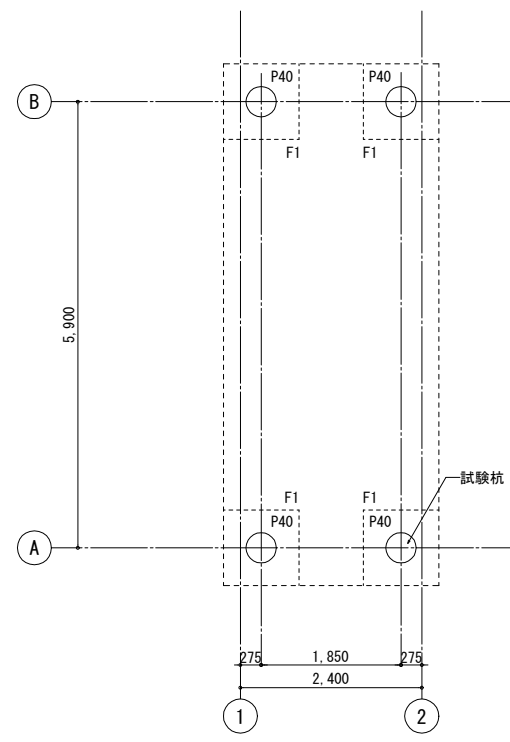
ボーリング調査位置図

杭仕様

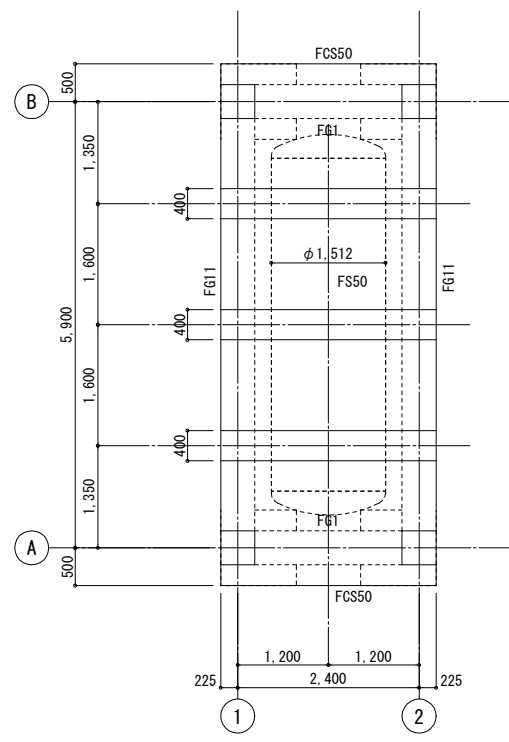
- ・杭 種 : 埋込杭
- ・工 法 : HiFB II 工法 (プレボーリング系根固め工法) または同等工法
- ・杭 径 : 上杭: φ400 SC杭 (490) t=6.0, 中杭: φ400 PHC杭 A種, 下杭: φ400 PHC杭 A種
- ・杭 長 : L=20.0m (上杭6.0m+中杭7.0m+下杭7.0m)
- ・杭耐力: P40:Ra= 700 kN/本
- ・杭本数: P40:4セット

住 吉 中 継 ポ ン プ 場

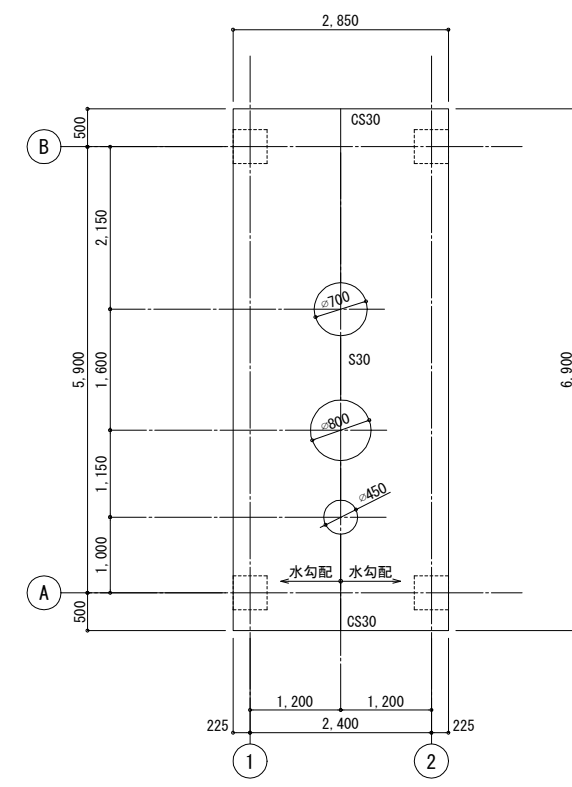
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	地下タンク構造図 (1)		
図面番号	AS-7		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



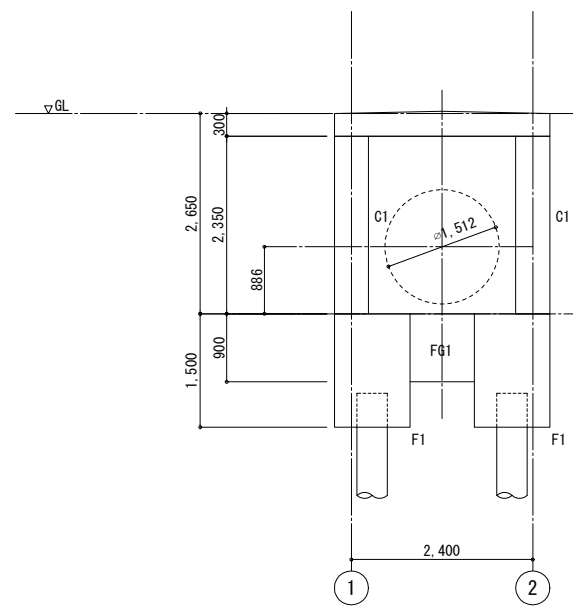
杭 伏 図



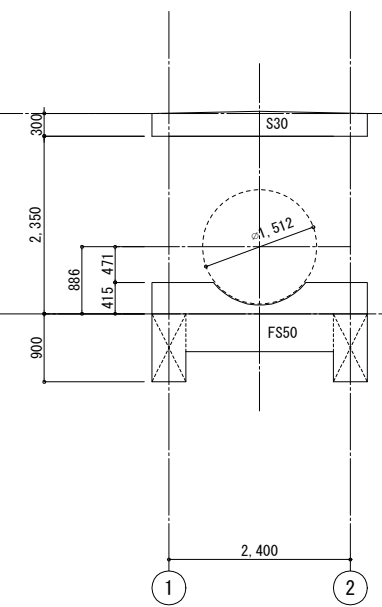
基礎伏図



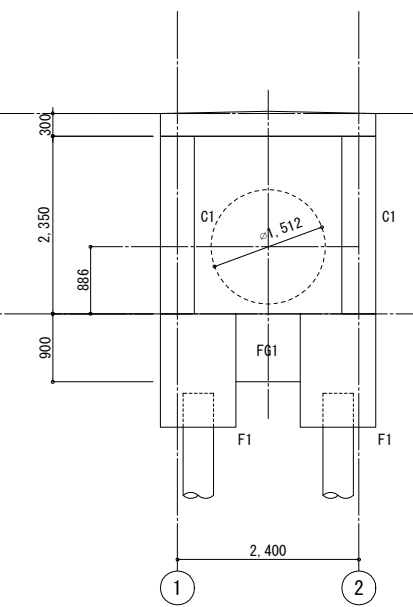
上部伏図



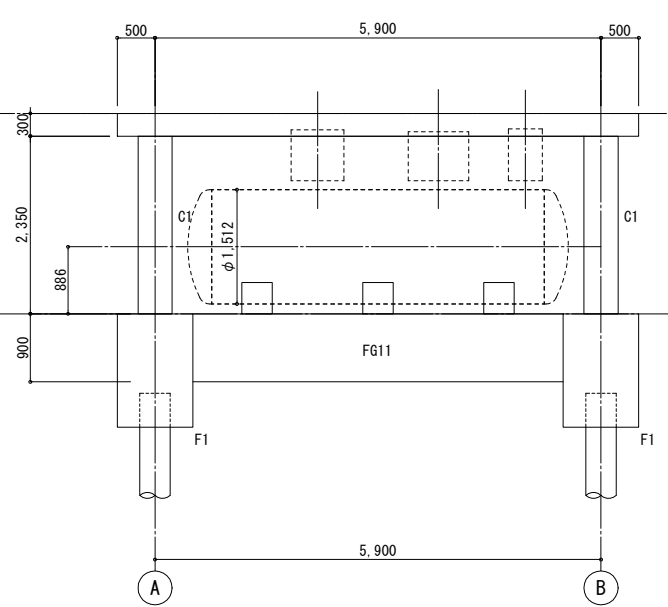
A通り軸組図



A-B間断面図



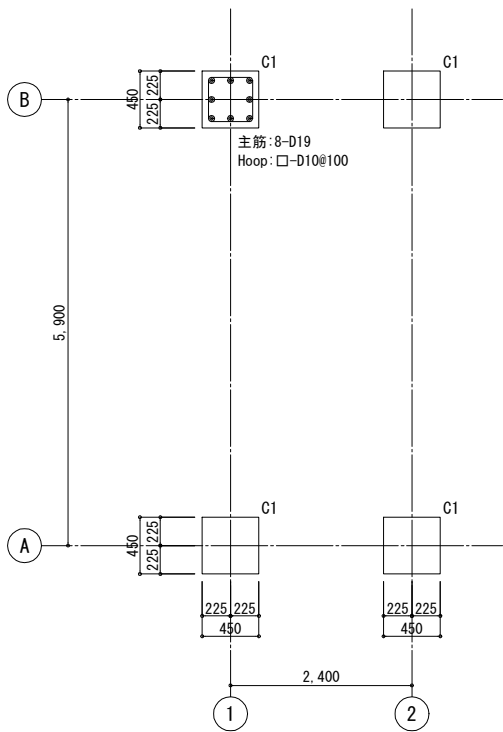
B通り軸組図



1,2通り軸組図

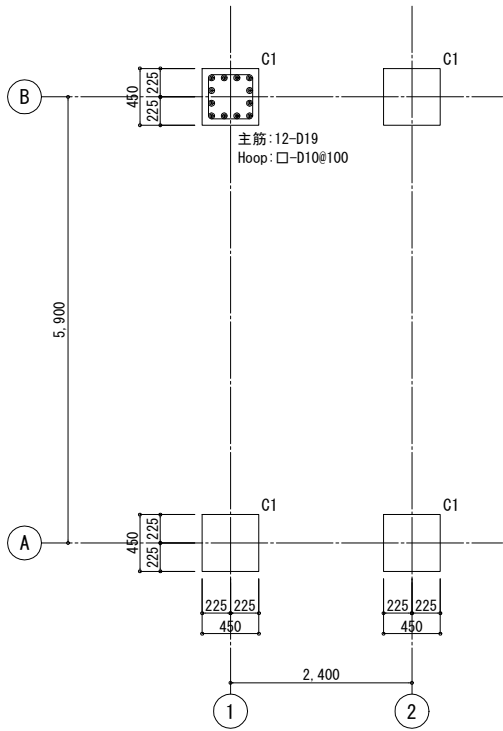
住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	地下タンク構造図 (2)		
図面番号	AS-8		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

架構配筋図 S=1/30



柱断面リスト(柱頭)

・コンクリート強度:24N/mm2
・鉄筋強度 : SD295 (D10～D16), SD345 (D19)



柱断面リスト(柱脚)

・コンクリート強度:24N/mm2
・鉄筋強度 : SD295 (D10～D16), SD345 (D19)

梁リスト S=1/30

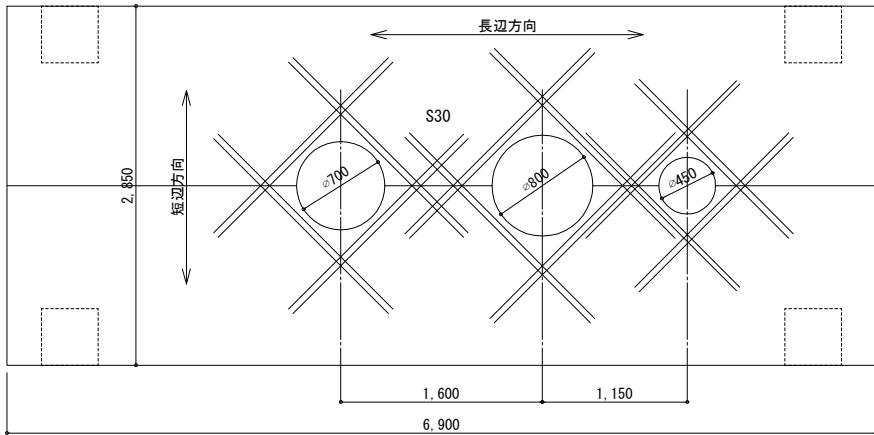
・コンクリート強度:24N/mm2
・鉄筋強度 : SD295 (D10～D16), SD345 (D19～D25)

符 号	FG1	FG11	
位 置	全断面	全断面	
B×D	450 × 900	450 × 900	
断 面			
上端筋	6-D22	6-D22	
下端筋	4-D22	6-D22	
スタップ	□-D13@200	□-D13@200	
腹 筋	4-D13	4-D13	
幅止筋	D10@1,000	D10@1,000	

スラブリスト

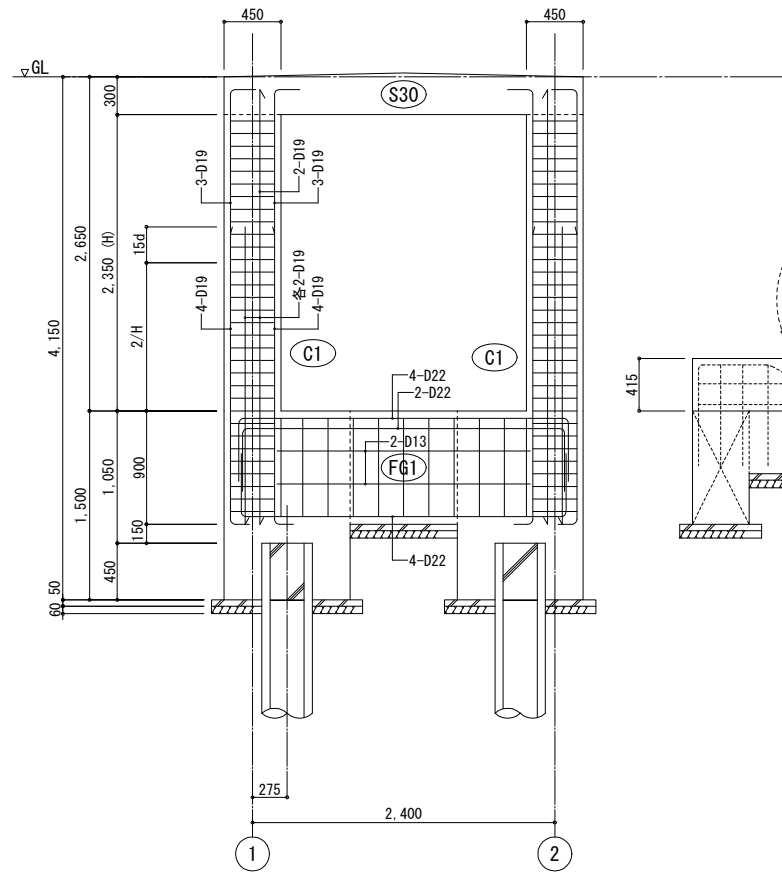
特記なき限り 幅止め筋:D13@1,000

符号	スラブ厚 (mm)	位置	配筋		備考
			短辺方向	長辺方向	
S30	300	上端筋	D16 @ 200	D16 @ 100	
		下端筋	D16 @ 200	D16 @ 100	
CS30	300	上端筋	D16 @ 200	D16 @ 100	
		下端筋	D16 @ 200	D16 @ 100	
FS50	500	上端筋	D19 @ 200	D19 @ 200	
		下端筋	D19 @ 200	D19 @ 200	
FCS50	500	上端筋	D19 @ 200	D19 @ 200	
		下端筋	D19 @ 200	D19 @ 200	



上部床開口補強

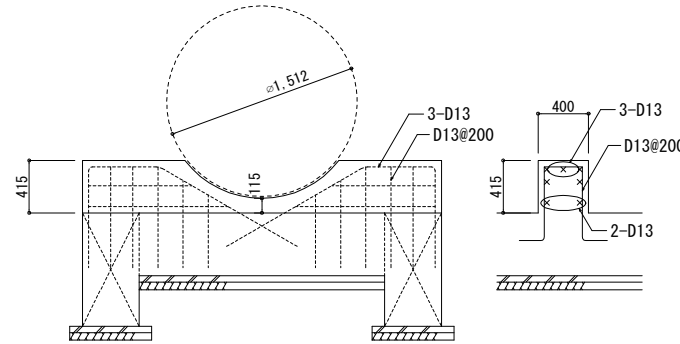
特記なき限り
開口補強斜め筋 : 各2x2-D19



A通り配筋図

・コンクリート強度:24N/mm2
・鉄筋強度 : SD295 (D10～D16), SD345 (D19～D25)

特記なき限り
・Hoop : □-D10@100
・スタップ : □-D13@200
・幅止筋 : D10@1,000以内



タンク受け基礎配筋図

住 吉 中 継 ポ ン プ 場

工事名称	住吉中継ポンプ場 自家発電設備更新工事		
図面名称	地下タンク構造図 (3)		
図面番号	AS-9		
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			